

アメリカザリガニ駆除でよみがえった水草

馬場雄司 (Eco〜る∞KEIHO・NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会)・山田莉音・楠本周平・伊藤颯亮・

高田正剛・平才未来・柴田一志・小柳歩叶・梅澤敏稔・谷岡俊吾 (Eco〜る∞KEIHO)

Introduction

目的

ニッポンバラタナゴ保護池におけるアメリカザリガニの減少と水草の関係を明らかにする。

ニッポンバラタナゴ

分類：コイ科タナゴ亜科

分布：近畿地方、山陽地方、四国東北部、九州北部



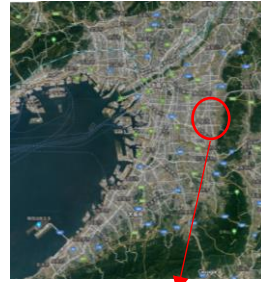
@Yuji Baba



@Yuji Baba

絶滅危惧 IA 類に指定されており、都市化による生息地の減少、タイリクバラタナゴによる遺伝子汚染、アメリカザリガニなどの外来種による影響により、個体数が減少している。八尾市のため池では、NPO や大学が中心となり保全が行われている。

Location and Methods



ニッポンバラタナゴ生息地



八尾市にある保護池のひとつ

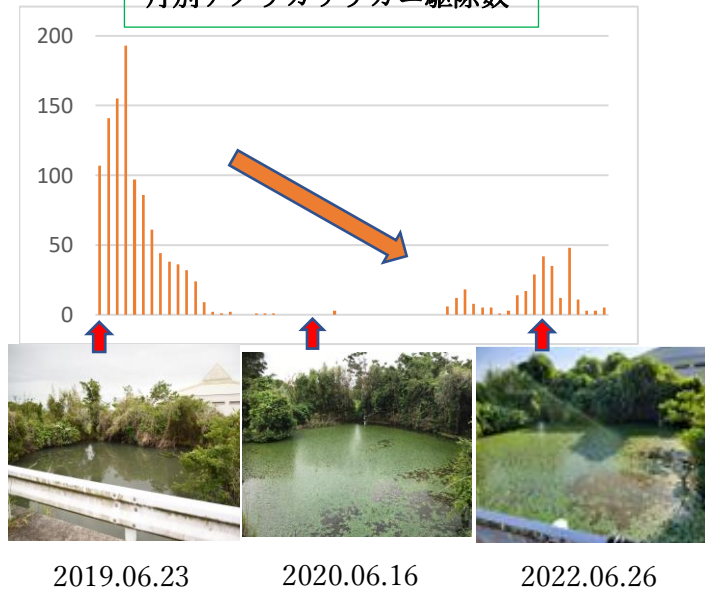
連続駆除装置を用い、2019年5月から2022年10月まで、気温の上昇する7月から9月は月2回、それ以外は月1回実施した。

アメリカザリガニの計数・計測は、成熟度別に計数計測（高橋ほか、2017）に従った。

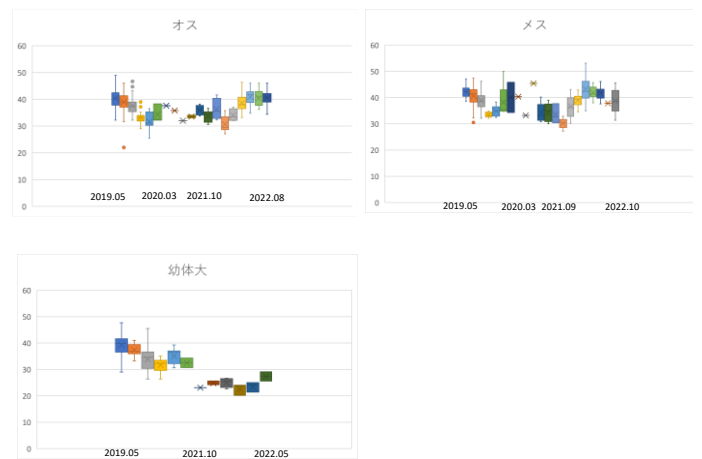
成熟雄（オス）、成熟雌（メス）、幼体大（全長 60mm 以上の未成熟雌雄）、幼体小（全長 60mm 未満）

Conclude

月別アメリカザリガニ駆除数



頭胸甲長の推移



Discussion

●連続駆除装置によるアメリカザリガニの低密度管理を実現

2020年から2022年の2年間ヒシ・エビモなどの水草を確認

2019年と2020年・2021年・2022年を比較すると、アメリカザリガニの駆除数はかなり減少

→アメリカザリガニの減少により、水草がよみがえった可能性が示唆できる。

頭胸甲長は、幼体大を除いて減少傾向にあるとは言えず、アメリカザリガニが周囲の環境から侵入している可能性が考えられる。